

集塵機取扱説明書

パルスジェット式集塵機

CFM-Hシリーズ



SDG

はじめに

このたびは集塵機 **ダストレーサ**® CFM-H形をお買い上げいただき、ありがとうございます。す。

弊社は、送風機、集塵機の専門メーカーとして、「流れの技術」と「回転機の技術」をもとに製品づくりに努めてきました。CFM-H形は、この「流れの技術」と「回転機の技術」をコンパクトにまとめ、優れた能力を発揮する高性能・省エネ形のパルス集塵機です。本機の性能が十分に発揮され、長期間故障なく安全にご使用いただくために、この取扱説明書をよくお読みください。この取扱説明書は取扱、保守点検の担当者の取り出しやすい場所に、大切に保管してご活用ください。また、取扱説明書の最新版は、弊社のホームページよりダウンロード出来ます

<https://www.sdg-eng.com/>

この取扱説明書は下記集塵機の標準品の設置から保守点検までを説明しています。

CFM-H10
CFM-H20
CFM-H30
CFM-H40

集塵機の取扱担当者、および保守点検担当者には集塵機取り扱いについての教育訓練を実施してください。

本書中のマークについて

本書中のマークには次の意味があります。

 警告	誤った取り扱いをしたときに、死亡や重傷に結びつく可能性のあることを説明しています。
 注意	誤った取り扱いをしたときに、傷害または物的損害に結びつくことを説明しています。



してはいけないことを表しています。



気をつけていただきたいことを表しています。



必ずしなければならないことを表しています。

目次

ページ

第 1 章	安全上の注意		- 1 -
第 2 章	本機の概要	本機の構造	- 3 -
		各部の名称	- 3 -
第 3 章	設置		- 4 -
		据え付け	- 5 -
		電気配線	- 5 -
		エアー配管	- 6 -
		フードおよびダクト配管	- 6 -
		試運転	- 7 -
第 4 章	運転	日常運転	- 7 -
		運転時の注意事項	- 8 -
		差圧表示	- 9 -
		パルス設定	- 9 -
第 5 章	保守点検		- 10 -
		点検項目および頻度	- 11 -
		FRユニットの保守	- 11 -
		ろ布交換方法	- 12 -
		故障の原因と対策	- 13 -
		仕様	- 14 -
		内部結線図	- 14 -
		外形寸法	- 15 -
第 6 章	保証規定		- 16 -
お問い合わせ窓口			裏表紙

■ 第 1 章 安全上の注意

警告



次のようなものは絶対に吸引しないこと。

- 火のついたタバコ、マッチ、高温の粉じん

- サンダー、グラインダ等の火花

集塵機のろ布は可燃性です。ろ布に着火し火災が起きます。

万が一集塵機内で火災が発生した場合は、直ちにスイッチを切り吸込口より取扱粉じんに適した消火剤を入れた後、吸込口、吐出口とも塞いでください。内部の温度が下がるまで、正面扉は開かないでください。

- ガソリン、シンナー等の引火性ガス

内部の電気部品、静電気、金属の接触などによるスパークで爆発する恐れがあります。



本体扉を開いたまま運転しないこと。負圧により扉が閉まり、指などをはさむ恐れがあります。また、電動機が過負荷になります。



集塵機の上には乗らないこと。集塵機の変形や、落下事故の恐れがあります



製品出荷時に使用している木材パレット、木枠等は釘を使用しています。木材梱包材を開梱した際は、直ちに釘を抜いて処理してください。飛び出した釘で怪我をする恐れがあります。



保守点検作業時は必ず電源を切って、ブレーカまたは配電盤に鍵をかけ、点検中であることを表示してください。誤って第三者が電源を入れないよう対策を講じてください。（労働安全衛生規則第 107 条）

アルミニウム、マグネシウム、チタンなど金属粉、小麦粉、でん粉など穀物粉体、木粉、樹脂粉、カーボンなど可燃性粉じんや、可燃性ガスは本機では吸引することは出来ません。集塵機内部で静電気などにより粉じん爆発を起こす恐れがあります。このような粉じんを取り扱う場合は、必ず、粉じん爆発対策品を使用してください。

本製品の設計寿命は、消耗品をのぞき 8 年です。設計寿命を超えて使用した場合、材料の経年劣化により、不具合や故障の発生するリスクが増えます。

注意



次のようなものを吸引すると故障の原因となるため吸引しないこと。

- **高温ガス**

40℃以上のガスは、内部の電気部品の絶縁不良の原因になります。

- **水、油、接着剤や、付着性の粉じん**

ろ布の払い落としがしにくく、目詰まりの原因になります。

- **ワーク、工具など粉じん以外の固形物**

ダクト、ろ布などを破損することがあります。

- **カーボンなどの微粉じん（5 μm以下）**

標準ろ布では吹き漏れの恐れがあります。高性能ろ布をご使用ください。

- **羽毛、綿ぼこり、発泡スチロールなど軽い粉じん**

内部でからみ付き落下しなくなることがあります。

- **ガラス粉、研磨剤など摩耗性の高い粉じん**

摩耗によりろ布に穴が開き粉じんが漏れます。

さらに、ダクトや本体にも穴が開くことがあります。



集塵機に他の圧力機で、高圧をかけないでください。



インバータを直接接続しないでください。内部の電動機以外の回路（パルス制御部）が破損します。



集塵機で回収した粉じんは再利用する場合を除き、粉じんの付着した古いろ布などの廃棄部品と同様に、国や地方条例などで定められた法律にもとづいて処理してください。

また、使用しなくなった集塵機を廃棄する際も、本体は付着した粉じんを取り除き金属廃棄物としてリサイクルしてください。その他、粉じん付着物は法律にもとづいて処理してください。



電磁弁やFRユニットなどのエア－機器を保守点検する際は必ず本体内の残圧を抜いてください。残圧はエア－供給を止め、FRユニットのドレンバルブをゆるめると機内のエア－が排気されます。

本集塵機は、対象粉じんとして標準ろ布で5 μm、オプションの高性能ろ布で1 μm以上の粒子径を想定しています。また粉じん量は1 m³/minの空気に対し1 g以下です。この範囲を超えた粉じんを吸引した場合、吹き漏れやろ布圧損の上昇、目詰まりなどが起きる場合があります。

第2章 本機の概要

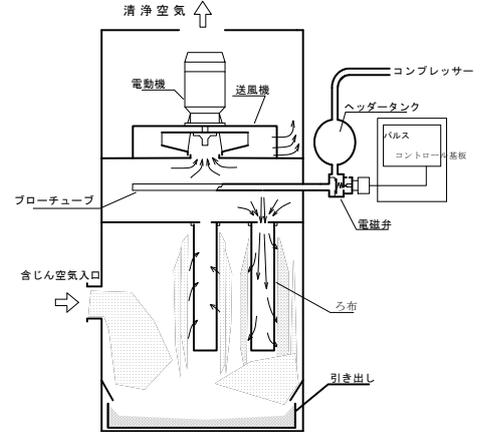
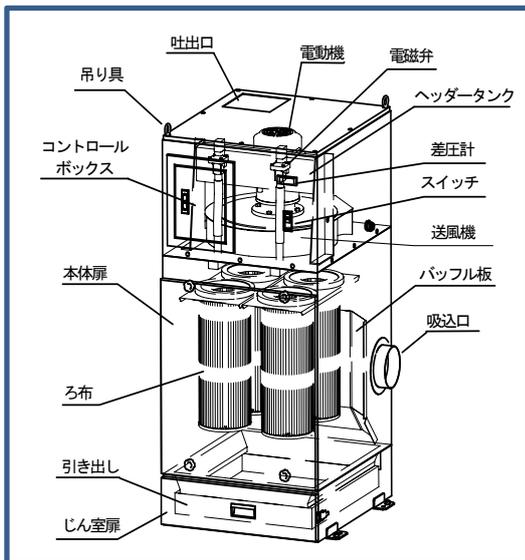
本集塵機は、加工作業や粉体取扱時に空気中に飛散または浮遊した粉じんを、分離捕集する装置です。短時間に多量の粉体を投入することは出来ません。

本機の構造

吸込口より吸引された粉じんと空気は、本体内で一次分離された後、ろ布に分散導入されます。ろ布外面でろ過された後、清浄空気となり送風機部を通り機外に排気されます。ろ布外面に付着した粉じんは、多孔板上部に設けられたブローチューブから、瞬間的にろ布内面に圧縮エアを吹き込むことで逆洗作用により、ろ布外面より払い落とされます。また、各ろ布の払い落としは、各列毎に自動的に行われます。払い落とされた粉じんは一次分離された粉じんとともに引き出しにたまります。

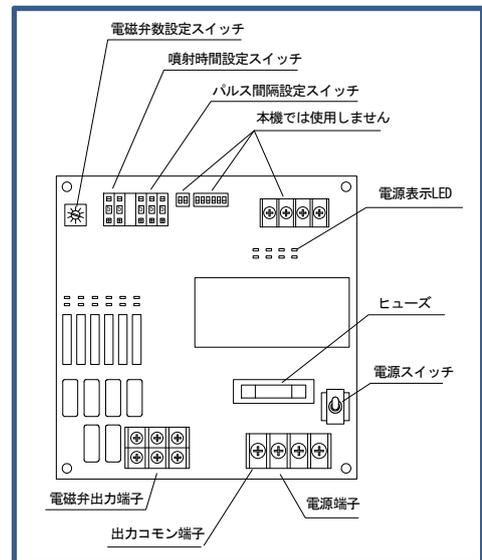
各部の名称

(機種により細部は異なります)

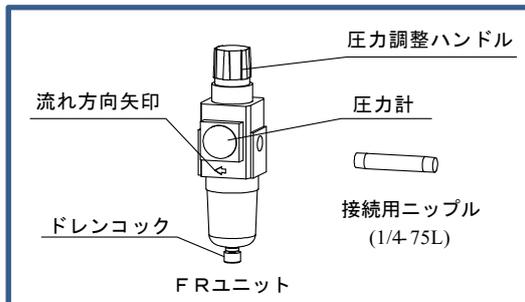


注) 本図は動作説明用であり製品とは構造が異なります

パルスコントロール基板 (コントロールボックス内)



付属品



第3章 設置

製品をお受け取りの際は、ご注文通りの製品であるか、形式、電圧、周波数等を銘板でご確認ください。また、付属品についてもご確認ください。万一、運送途中での破損、部品不足等がございましたら、直ちに販売店、最寄りの各担当拠点にご連絡ください。

運送中の振動でボルト類に緩みがないか確認してください。

開梱後不要となった梱包材料は、地域の条例に従って適切に処理してください。

本機は次のような場所に設置してください



屋内で雨水のかからない場所



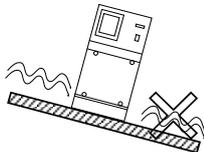
C F M-H形は屋内仕様です。水に濡れやすい場所は、感電、故障の原因となりますので避けてください。

常温で結露しない場所

周囲温度 5℃～40℃
湿度 80%以下

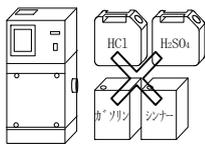
高温、結露は電気部品の故障、感電の原因になります。低温は、圧縮エアーのドレンや電磁弁が凍結する恐れがあります。

水平で振動のない場所



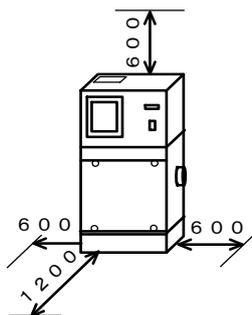
異常振動の原因となり、転倒の恐れがあります。

危険な薬品のない場所



ガソリン、シンナーなどの引火性の薬品の近くは、爆発、火災の恐れがあります。塩酸、硫酸などの腐食性ガスを発生する薬品の近くは本体、部品が腐食する恐れがあります。

メンテナンスのしやすい場所



粉じんの排出、ろ布交換、排気のために左記のスペースを確保してください。

単位：mm

据え付け



- 本体の移動は天井部のつり位置表示のあるつり具を利用し、強いショックを与えないようていねいにお取り扱いください。一点でのつり上げは危険ですので絶対に避けてください。また作業は有資格者が行ってください。（CFM-H40は必ず4点でつり上げてください。）

- 本機の据え付けは、コンクリートの床面へのアンカーボルトによる固定方式です。基礎面に隙間のある場合はライナー板で調整してください。



- 天井部の排気口がふさがれると、正規の吸引力が発揮できませんので、十分なスペースを確保してください。また、上に物を置いたりしないようご注意ください。

電気配線



- 電気配線は、『電気設備技術基準』『内線規定』にもとづいて有資格者が行ってください。

- 本機の電源は銘板を確認し、指定の電源をご使用ください。

異なった電源で運転されると
故障の原因となり、大変危険
です。

定格電流（参考値）

- インバータの出力電源は本機に
入力しないでください。電動機
以外の機器が破損します。

- 電源の漏電遮断機、ブレーカーは
起動時の電流に合うものを使用
してください。

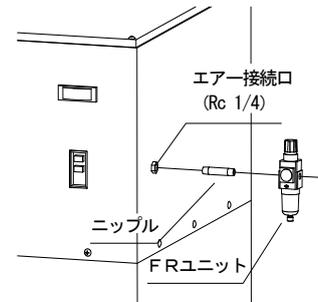
- 電源接続時は、必ずアースも接続
してください。

- CFM-H40は、電源ON-OFFスイッチは設けていません。

形 式	200V	200V	220V
	50Hz	60Hz	60Hz
CFM-H10	6.1A	6.1A	5.6A
CFM-H20	8.5A	8.1A	7.5A
CFM-H30	15.1A	13.7A	12.9A
CFM-H40	22.6A	21.0A	20.0A

エア配管

- 本体側面のエア接続口に付属のニップル、FRユニットを取付、圧縮エアを接続してください。FRユニットは、エア流れ方向の指定があります。➡に従って取り付けてください。
- メンテナンス時にエア供給を止められるよう、バルブを設置して下さい。
- 新たにエア配管を施工した場合は、集塵機に接続前にフラッシングを行い配管内のゴミを取り除いてください。
- エア接続口は、出荷時は右側になっていますが、内部で組み替えることにより左側へ変更が可能です。また、FRユニットの圧力計も裏側への変更が可能です。



- 圧縮エアは油、水の混入してないものをご利用ください。油、水がろ布に付着しますと、目詰まりの原因になります。
- エア圧力は0.5～0.7 MPa^{注)}にセットしてください。FRユニット上部のハンドルを引き上げて回すと変更できます。変更後はハンドルを押し戻してください。

注) 0.1 MPa = 1 kgf/cm²

- 下表のエア消費量を目安に、コンプレッサ容量、配管径を選定ください。

CFM-H 10	CFM-H 20	CFM-H 30	CFM-H 40
4 0 L/min	5 0 L/min	6 0 L/min	8 0 L/min

注) エア消費量は、0.6 MPaで1分間に2回パルスを作動させた場合の大気圧換算値です。

フードおよびダクト配管

- 粉じん則で定められている捕捉点での吸込風速(制御風速)は、フードの形式によって変わります。また粉じんの種類や飛散状態によっても変わりますので、適切な風速が得られるようにフードを設計する必要があります。また、ダクト内の風速は、粉じんがダクト内に滞留しない風速が発生するようにしてください。
- ダクト配管は継目から吸い込んだり、漏れたりしないよう気密にご注意ください。
- ダクトの荷重を直接本体にかけないよう、サポート、伸縮継手を利用してください。
- フレキシブルダクトをご使用の場合は、急激に曲げたり、不必要にたるませたりすると吸引力が低下します。



- 吸込口は出荷時右側に取り付けていますが、左側に変更が可能です。
吸込ふたと吸込口を付け替えてご使用ください。
- 排気ダクトは通常は必要ありませんが、必要に応じて設置してください。
- 排気口にダクト配管する場合、配管の長さはできるだけ短くしてください。
排気側に大きな抵抗がかかると、吸引力が弱くなるばかりでなく、
スイッチ部等よりエアー漏れを起こす場合があります。また、天井パネル
の周囲はコーキングなどで漏れ止めを行ってください。
- 排気ダクトは点検時、簡単に取り外せるような構造にしてください。

なお、フード、ダクトの選定について詳しい資料の必要な方は最寄りの各担当拠点までお申し付けください。

試運転



- 試運転の前に次の項目について再確認してください。
 - ・ 据え付け状態にガタツキなどの異常がないか。
 - ・ 電源コード、アースの接続、絶縁、電圧が規定値内か。
 - ・ エアー接続部の漏れ、ダクト内にボルト類、工具など忘れ物がないか。
 - ・ 本体扉が確実に閉じているか。
- 上記の確認ができましたら、スイッチを一度入れ、すぐ切った後、回転方向を確認してください。天井部パネル中央のグロメットを外すと、電動機軸で確認できます。
時計回りであれば正回転です。逆回転の場合は元電源を切った後、電源コードの3本の内、2本を入れ替えてください。
- 運転中振動、異音の無いことを確認してください。また、ダクト接続部より漏れがないか確認してください。
- 運転開始と同時にパルスが働くことを確認してください。

第4章 運転

日常運転

運転手順

- ① 圧縮エアーの圧力が0.5～0.7 MPa あるか確認する。
- ② 本体扉が閉じていることを確認する。
- ③ ダンパーが設置されている場合はダンパーを閉じる。
- ④ スイッチを入れ運転を開始する。
- ⑤ ダンパーを開く。

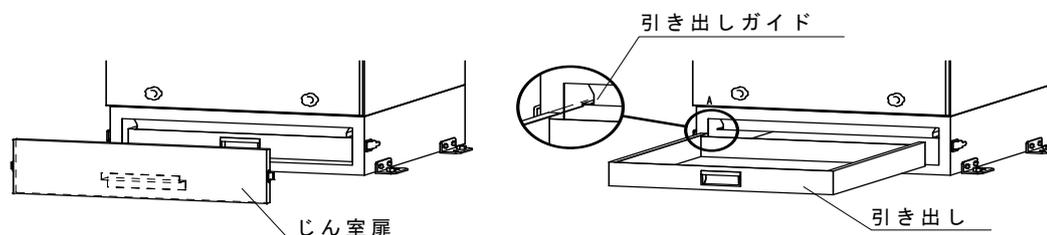
停止手順

- ① スイッチを切る。
- ② 5分程度待ってからじん室扉を開け、引き出しにたまった粉じんを排出する。

粉じん排出方法

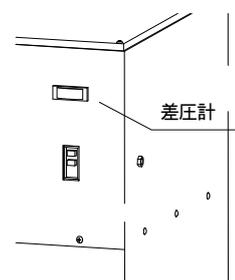
じん室扉両横のパッチンを外し、扉を外して引き出しを引き抜いて中に溜まった粉じんを排出してください。引き出しの外にこぼれた粉じんは、ほうきなどでかき出してください。引き出しを差し込む際は引き出しガイドの上に引き出しを差し込んでください。引き出しとガイドの間に隙間がないよう、確実に差し込んでください。

(CFM-H10, H20 は引き出しとじん室扉が一体です)



運転時の注意事項

- スイッチONボタンの操作は速やかに確実に奥まで押し込んで下さい。押し込みが不完全な場合、接触不良を起こし発熱や欠損事故により故障の原因となります。
- 運転初期、粉じんが細かい場合一時的に少量の粉じんが漏れる場合があります。ろ布全体に粉じんが付着すれば漏れなくなります。漏れが止まらない場合は、オプションの高性能ろ布に交換してください。
- 付着しやすい粉じんを吸引した場合、ろ布室奥バツフル板内部に粉じんがたまる場合がありますので、定期的に清掃してください。頻繁にたまる場合は、バツフル板を取り外して使用してください。
- 安定した吸引性能を保つため、引き出し内に粉じんをためないように、量の多少にかかわらず1日1回程度は排出してください。排出作業時は保護メガネ、防じんマスク、手袋を着用してください。
- ダンパーが設置されている場合、ダンパー全閉状態での長時間運転は避けてください。パルスによりじん室内に圧力がかかり、本体の疲労強度低下につながります。
- ろ布の寿命は、使用時間、粉じん量等により変わりますが、一般に1～2年とされています。パルスが働いても差圧が下がらない場合は、ろ布を交換してください
- 通常のご使用では、ろ布の破損はありませんが、万一破損した場合は運転を中止し、新しいろ布と交換してください。破損したままご使用になりますと、粉じんが大気中に再流出するだけでなく、送風機部の破損の原因にもなります。
- 集塵機で回収した粉じんは再利用する場合を除き、交換した古いろ布などの廃棄部品と同様に、国や地方条例などで定められた法律にもとづいて処理してください。



差圧表示

本体正面の差圧計の表示で、ろ布差圧(ろ布の詰まりの状態)を知ることができます。ろ布の差圧は使用状況により大幅に異なりますが、1.5 kPa 以下で運転するようにしてください。ろ布差圧は一般に使用条件により 下記のような傾向になります。

ろ布差圧小  ろ布差圧大

粉じんの量	少ない	多い
粉じんの大きさ	大きい (50 μm以上)	小さい (10 μm以下)
粉じんの状態	さらさら	やや付着する
粉じんの比重	重い	軽い
処理風量	少ない	多い

また、ろ布差圧+ダクト配管抵抗 \leq 2.45 kPa (CFM-H10 は 1.96kPa) で風量は定格値より多くなります。差圧に余裕がある場合でも、風量を調節して、なるべく定格風量以下で運転してください。

パルス設定

ろ布差圧が高い場合、または低すぎる場合、パルス設定を変更することにより調整することができます。

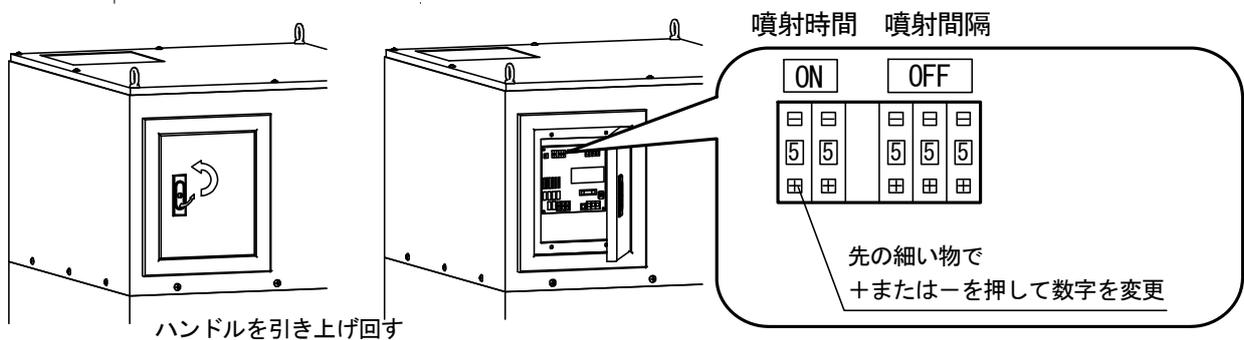
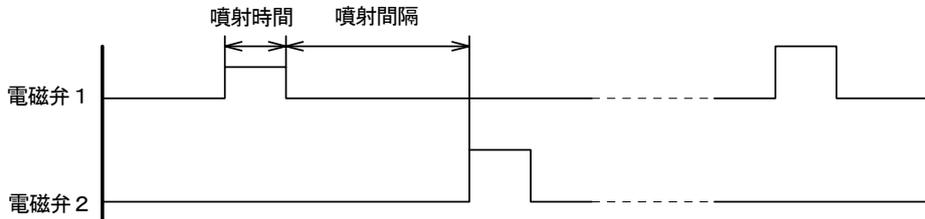
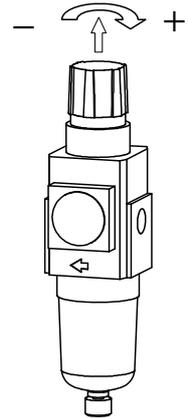
機能	設定範囲	標準設定	ろ布差圧 下がる	上がる
パルス圧	0.55MPa~0.7MPa	0.6 MPa	高い	低い
パルス噴射時間	0.15秒 ~0.4秒	0.2 秒	長い	短い
パルス噴射間隔	7 秒 ~120秒	30 秒	短い	長い

注) 機器の設定値は上記範囲を超えて設定可能ですが、運転時は上記設定範囲内としてください。

パルス設定をろ布差圧が下がる方向に変更した場合、圧縮エアーの消費量が増えます。変更する場合は最小限にしてください。

パルス圧はFRユニット上部の調整ハンドルを引き上げ、回すことにより調整できます。

パルス噴射時間(ON)、噴射間隔(OFF)はコントロールボックス内のパルスコントロール基板の設定スイッチで変更できます



コントロールボックス内は感電の恐れがあります。変更作業を行う際は電源を切るか、ゴム手袋はめるなど感電防止対策を講じてください。

第5章 保守点検

! 集塵機の故障、事故を未然に防ぎ、末永くご使用いただくために、保守点検を必ず行ってください。

保守点検作業時は必ず電源を切って、ブレーカまたは配電盤に鍵をかけ、誤って第三者が電源を入れないよう対策を講じてください。また、内部の点検、保守、ろ布交換などの作業を行う場合は、保護メガネ、防じんマスク、手袋を着用してください。

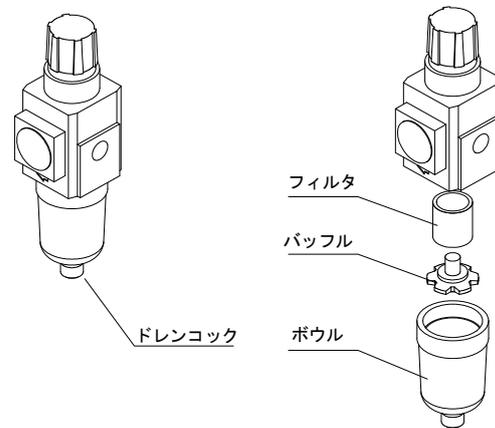
労働安全衛生法（有機則、鉛則、特化則、粉じん則）の除じん装置に該当する場合は、法令で定められた定期自主検査指針に従って点検を実施してください。

点検項目および頻度

点 検 項 目	頻 度	点 検 内 容
本体扉	運転前	完全に閉じているか
ろ布差圧	2回/日	差圧計にて測定記録
圧縮エアの圧力	〃	FRユニットの圧力計で測定記録
パルスの動作確認	1回/日	電磁弁の動作音で確認
排気の状態	〃	粉じんの吹き漏れはないか
FRユニットのドレン	〃	ドレンがたまっていないか
送風機の状態	〃	異常振動、異常音がないか
エアー配管	〃	漏れはないか
送風機羽根車	1回/月	粉じん付着、摩耗がないか
基礎ボルト	〃	ゆるみがないか
ろ布の取付状態	〃	外れ、ゆるみ、破損等はないか
各接合部	〃	ボルトのゆるみ、エアー漏れがないか
FRユニット	〃	フィルターの目詰まりはないか
各電気配線	〃	絶縁はよいか、端子のゆるみはないか
本体内面	1回/年	付着粉じんの清掃
本体	〃	腐食、溶接割れがないか

FRユニットの保守

- ドレンは貯まりすぎないように定期的に排出してください。ドレンコックを回すとエアーとともにドレンが抜けます。
- ドレンが大量に発生する場合にはオートドレン式（市販品）に交換するか、エアー配管途中の上流側にドライヤを設置してください。
- 定期的にフィルタを洗浄してください。ボウルおよびバッフルを回しフィルタを取り外して中性洗剤で洗浄してください。



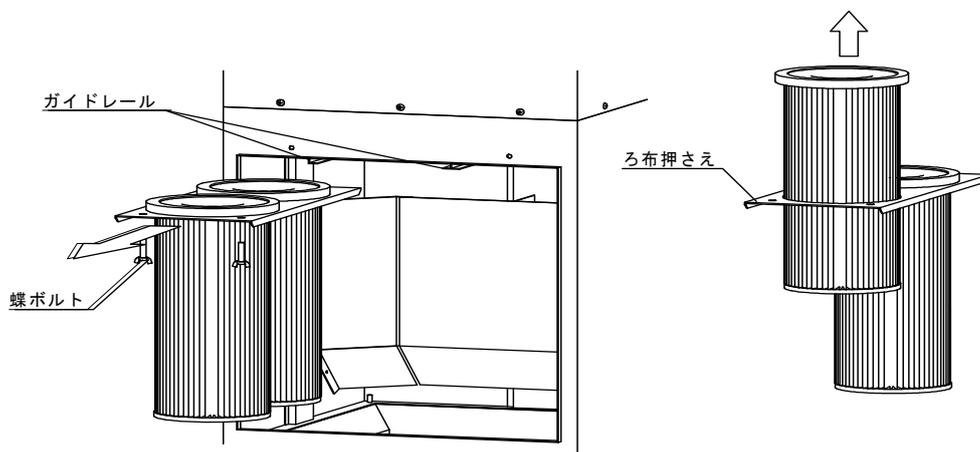
- FRユニットの分解の際は必ずドレンコックを回し、圧縮エアの残圧を抜いてください。

ろ布交換方法

- ① 本体扉のクロスノブを取り外してください。本体扉を手前に取り外してください。
- ② 蝶ボルトを外し、ろ布押さえを手前に引き抜いてください。
- ③ ろ布を新しいものと交換してください。ろ布押さえは、上下の向きがあります。
折り曲げ部を下向きに取り付けてください。
- ④ 取付けは、ろ布押さえをガイドレールの上へのせ、奥まで確実に差し込んでください。
差し込みが足りないとねじ穴が合いません。
- ⑤ 蝶ボルトをパッキンが密着するまで均等に締めてください。
- ⑥ 正面扉を取り付けてください。

引き出しを取り出し、引き出しの上で作業すると粉じんの飛散が少なくてすみます。

交換用ろ布は当社純正品をご使用ください。



交換用ろ布サイズ本数

型 式	CFM-H10	CFMH20	CFM-H30	CFM-H40
ろ布サイズ	φ 2 0 0 x 5 0 0			
本 数	4 本	6 本	9 本	1 2 本

故障の原因と対策

故障の状況	原因	対策
送風機モータが 起動しない	<ul style="list-style-type: none"> ・電源が入っていない ・過負荷保護装置が働いている ・電動機の故障 	<ul style="list-style-type: none"> ・電源を入れる ・スイッチを切り、原因を確かめ、異常を取り除いて再起動 ・点検、修理、交換（弊社に相談）
送風機異常音、 異常振動	<ul style="list-style-type: none"> ・軸受の破損 ・異物混入 ・羽根車不つり合い 	<ul style="list-style-type: none"> ・軸受交換（または電動機交換） ・異物の除去 ・羽根車清掃 ・不つり合い修正（弊社に相談）
粉じんの 吹き漏れ	<ul style="list-style-type: none"> ・ろ布の破損、取付不良 ・パッキンの劣化 ・粉じんが細かい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ろ布交換、再取付 ・パッキン交換 ・高性能ろ布に交換する
吸引力が弱い	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンパーが閉じている ・吸込ダクトの閉塞 ・ろ布の目詰まり ・両サイドからの吸込み 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンパーを開く ・詰まりを取り除く ・次項参照 ・片側の吸込口から分岐し、配管し直す。
ろ布の目詰まり	<ul style="list-style-type: none"> ・パルス圧不足 ・パルス間隔が長い ・ろ布寿命 ・粉じんの特性が悪い 	<ul style="list-style-type: none"> ・パルス圧を上げる（max0.7MPa） ・パルス間隔を短くする ・ろ布交換 ・別途対策が必要
	<ul style="list-style-type: none"> ・粉じん量が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクロン、沈降ボックス等の前処理装置を設置する
	<ul style="list-style-type: none"> ・ろ過風速が速すぎる為、ろ布に粉じんが入り込み払い落とし機能で目詰まりが回復しない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンパーなどで吸込量を調整する。
パルスが 作動しない	<ul style="list-style-type: none"> ・パルスの電源が入っていない ・電磁弁の故障 ・電磁弁配線の断線 ・圧縮エアーが来ていない ・パルスコントロール基板の故障 	<ul style="list-style-type: none"> ・基盤のスイッチを入れる ・ヒューズの点検 ・電磁弁の交換 ・配線の点検 ・エアー配管系の点検 ・基板交換
パルスが 止まらない	<ul style="list-style-type: none"> ・電磁弁の故障 	<ul style="list-style-type: none"> ・電磁弁の清掃、または交換

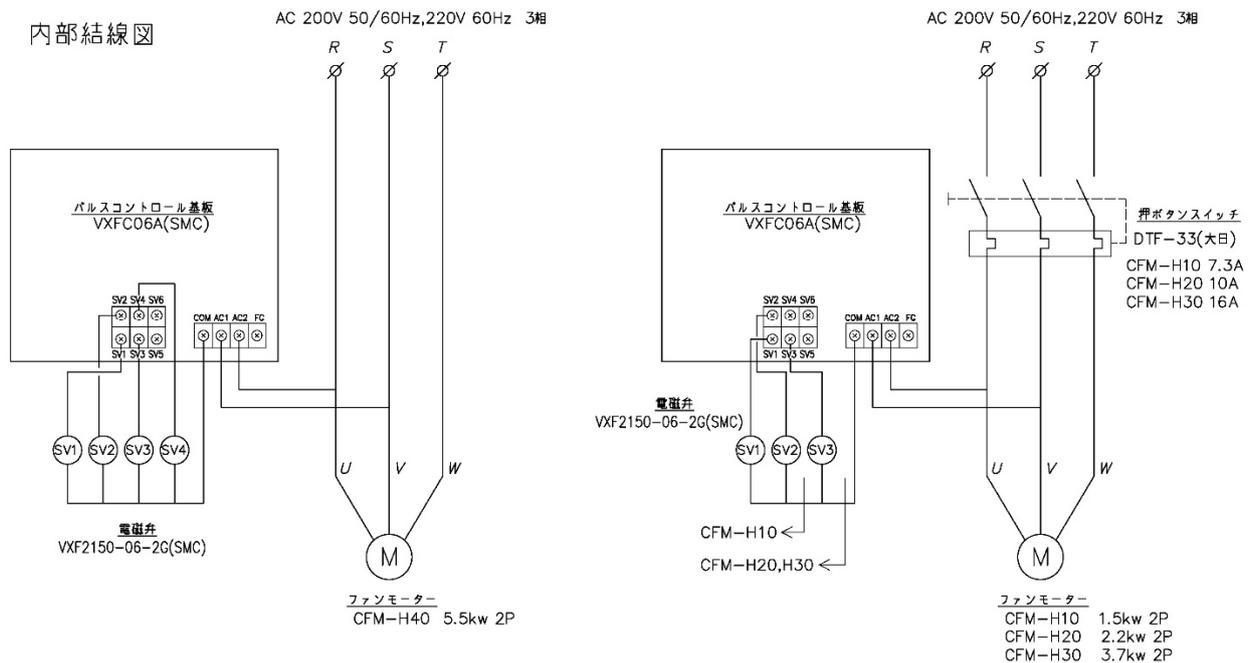
仕様

形式	CFM-H10	CFM-H20	CFM-H30	CFM-H40
電動機	1.5kW 2P	2.2kW 2P	3.7kW 2P	5.5kW 2P
風量 (m ³ /min)	20	30	40	60
静圧 (kPa)	2.06	2.45	2.45	2.65
ろ過面積 (m ²)	10.4	15.6	23.4	31.2
電磁弁数 (個)	2	3	3	4
騒音値 (dB(A)) 注1	62	68	68	71
エアークonsumsi量 (L/min) 注2	40	50	60	80
引出し容量 (L)	29	42	32x2ヶ	65x2ヶ
製品質量 (kg)	180	222	286	408

注1) 騒音値は吸込ダクト配管後、正面1.5mでの値です。ご使用環境により異なります。

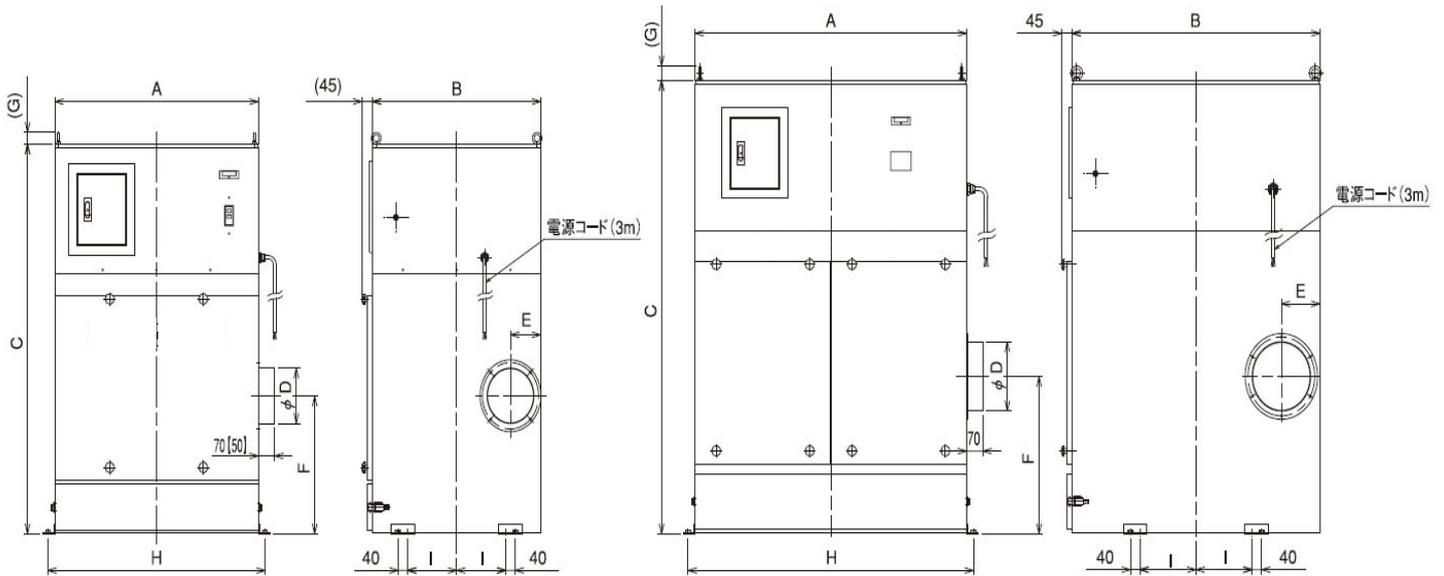
注2) エアークonsumsi量はパルス標準設定値での大気圧換算値です。

内部結線図



外形寸法 (mm)

形 式	寸法 (mm)								
	A	B	C	D	E	F	G	H	I
CFM-H10	650	720	1415	150	105	500	42	710	210
CFM-H20	870	720	1410	200	130	500	42	930	210
CFM-H30	870	1000	1495	225	145	500	42	930	250
CFM-H40	1160	1060	1640	250	160	570	75	1240	250



CFM-H10~H30

【 】内は CFM-H10 の寸法です

CFM-H40

■ 第6章 保証規定

本製品を取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがって、正常な状態で使用されていて保証期間内に故障した場合には、本規定記載内容にもとづき無償修理させていただきます。

保証期間

製品納入の日から12ヵ月間といたします。

保証範囲

保証期間内に正常な使用状態において、製造上の不備により故障が発生した場合、無償で当該部品の修理または交換をいたします。

ただし、故障に伴う機会損失、操業損失その他二次的損失は補償範囲外とさせていただきます。

保証期間内においても次のような場合は有償修理となります。

- ◇取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書きによらない使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
- ◇お買い上げ後の輸送、落下等による故障および損傷
- ◇火災、地震、風水害、落雷、その他天災地変、塩害、公害などの環境要因、異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）等による故障および損傷
- ◇弊社以外での修理、改造（製品への穴あけなどを含む）による故障および損傷
- ◇弊社指定品以外の部品をご使用の場合の故障および損傷
- ◇お打合せ以外の粉じんを吸引した際の故障および損傷
- ◇鋭利な物質を吸引したことで起こったろ布、パッキンの破損による故障および損傷
- ◇経年変化または使用に伴う変色、傷、消耗部品の自然消耗等の不具合
- ◇取扱説明書に示された保守点検を行わなかったことが原因で誘発された故障および損傷
- ◇ろ布、パッキンなど消耗品

※ご注意

- (1) 本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。
- (2) 本書の内容については万全を期していますが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がございましたら、ご連絡ください。
- (3) ご使用場所の変更により電源周波数が変わる場合は、羽根車を取り替えなくてはなりませんので、最寄りの各担当拠点へご連絡ください。
- (4) 当社にお問い合わせの際は、製品ネームプレート（銘板）に記載の形式と製造番号も合わせてお知らせ下さい。

SDG株式会社

<https://www.sdg-eng.com>

